

事業所名

POP-POP 放課後等デイサービス

支援プログラム

作成日

令和7年

3月

20日

法人（事業所）理念		子どもや保護者、職員の笑顔を繋げ、子どもたちに生きる力を育て、自立して社会へはばたくことを目指します					
支援方針		あそびからはじまり、できるところから運動へつなげる療育を中心に、個々の状況に合わせた総合的な支援を提供していきます					
営業時間		火曜日～金曜日 土・祝日	9時	30分から	18時	30分まで	送迎実施の有無 あり
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	ご家庭での生活、学校などでの集団生活と成長段階に応じて必要となるスキルが身につくように支援計画を立てて、子どもたちの「より良い暮らし」につながる支援を行います。 「身だしなみ、食事のマナー、衛生管理、病気や薬とケガ、などの身辺自立。料理、掃除、片付け、火の扱いや防災など家事の自立。交通ルール、お店のマナー、スケジュール管理など地域生活の自立」					
	運動・感覚	5領域において運動支援を基本とし、粗大運動や微細運動から運動神経系発達を促進し、定期的な運動から脳の土台をつくり支援を行います。 「とびばこ、てつぼう、マット、ボール遊び、サーキット、ラダートレーニング、ふれあい遊び、などの身体機能の基礎となる粗大運動」 「道具の操作や紙を折るなどの手先を使う制作活動の微細運動」					
	認知・行動	運動支援を通して、応用行動分析（ABA）を用い、よい行動が増え定着するよう環境設定し、ポジティブサイクルで関わり支援していきます。 「時間の感覚や時計の読み方、日にちやカレンダーの理解、お金の理解などの地域生活の自立。はさみや定規などの必要な道具の理解と扱い方の自立。行動の切り替え、衝動のコントロール、危険を避けるなどの対人関係の自立」					
	言語 コミュニケーション	物の形や名前の理解、日常生活での日常などを一つ一つ学ぶことによって発達を促し、子どもの小さな学びを大切に、さらに大きな学びへとつながるよう「学ぶ意欲」を育みます。 「自己紹介、読み聞かせ、語彙力の増加、説明の理解、将来の夢について考える、指示の聞き取り、説明と報告の方法、疑問文など聞くことや話すことの自立。」					
	人間関係 社会性	様々な活動を経験し、他者と触れ合うことで、心の豊かさを育みます。子どもの発達状況に応じて、親子間や友達との関わり方、ルールと順序を守ることなど「よりよいコミュニケーションの取り方」を学びます。 「気持ちを表す、他人への気遣い、お礼やお願いの言葉、謝る言葉、会話のマナー、友達づくりなどの対人関係の自立」					
家族支援		子どもの発達について共通理解を深め、子育てに不安や心配ごとがあれば都度、特性を考慮した対応策とともに考えます。また、地域生活での安心を増やしていただけるよう情報共有をしていきます。			移行支援		中学や高校などの進学に向けて、移行を見据えた各関係機関との連携や移行先の選択について児童や保護者へ相談援助を行います。
地域支援・地域連携		児童に関わる関係者や関係機関との連携や情報共有を行い、必要に応じて会議を行う。地域生活での困りごとを関係機関と連携し解決に向けて支援していく。			職員の質の向上		朝礼では療育や子どもの姿を振り返り職員間での情報共有を行う。事業所内や外部の安全な環境の確認。より良い支援の共有を行う。社内研修や外部研修の実施。定期的な上司との面談や振り返り。
主な行事等		季節の行事「夏祭り、ハロウィン、クリスマス、陽だまりロードの散歩など」 外部活動や災害時への対応「ロイズなどの工場見学、札幌市民防災センターでの災害などの体験、避難訓練など」					